

「やぶっ子タイム」学習指導案

研究主題 地理情報システムによる主題図の作成と活用
- 学習用市町村別地図を基にして -

平成15年11月6日(木)第2校時

6年1組(男子18名、女子15名)

指導者 小林 宏

場所 パソコン室

単元 史跡をめぐって藪塚本町の昔のことを知ろう

この単元について

1 研究主題との関連

総合的な学習の時間の授業において、子どもたちが調べてきたことをデジタル化した学習用市町村別地図に表現したり、年代ごとの史跡の分布の様子や現代の土地利用の様子を重ね合わせたりすることによって、情報を共有化し、新しいことに気づくことができるようにすることに視点をあてた授業である。

2 本単元の魅力

藪塚本町は、27,000年ほど前から人間が住んでいた場所である。昭和25年明治大学の調査によって、笠懸町の岩宿遺跡と同時代(旧石器時代)のつつじ山遺跡が藪塚本町大字藪塚字台山で発見されている。

それ以後の時代(縄文時代、弥生時代、古墳時代、奈良時代、平安時代)の遺跡も数多く見つかっている。

藪塚本町には、現在18,785人の人々が住んでいる(平成12年度国勢調査から)。土地利用の様子を見てみると、町全体に市街地が広がり、人口も分布も町全体に広がっていることが分かる。しかし、このような人口分布になってきたのは、最近330年くらいのものである。

地形的に見てみると、大間々扇状地の中央部に位置して、町のほぼ4分の3を占める藪塚台地と呼ばれる平地は、砂地で水はけがよく、雨が降ってもすぐにしみ込んでしまう土地である。水を得ることが難しく、ここは長年人々が住める土地ではなかった。そのために、旧石器時代から、江戸時代まで人々が住んでいたのは、八王子丘陵と呼ばれる山際の土地であった。

荒野であったところを開墾し、今のように町全体に人々が住むことができるようになったのは、いくつかの歴史上のポイントで、何人かの人々が「町をこのようにしよう」という夢を持って取り組んできたからである。

町の発展に欠かすことができない代表的な人物としては、次の3人を取り上げる。

江戸時代の岡上景能と、明治時代の新井重郎と伏島近蔵である。

それ以外には、東武鉄道敷設と藪塚駅の設置、戦後の開発などを扱う。

町の歴史に関しては、子どもたちは4年生の社会科で学習している。今回は、町の史跡めぐりで、史跡を撮影したり、史跡のある場所の特徴を記録したりさせる。それらの記録をまとめや年代ごとの史跡の分布の様子を示した学習用市町村別地図、町の土地利用図などを使って、史跡のある場所が町の中のどのような位置にあるかに気づかせ、どうしてそこに位置していたのかを考えさせるようにするとともに、町の自然条件からそこにしか住めなかった人々のことを理解させる。

また、自然条件だけでは、町は発展してこなかったことを、歴史事項を振り返りながら考えさせる。自然条件を時には受け入れ、時には跳ね返してきた人々によって、町が発展してきた

ことを子どもたちなりに考え、つかませることができるようになると思う。

以上のような学習を通して、藪塚本町に誇りを持ち、これからの町について自分なりの考えをもつことができる子どもたちになると考え、本単元を設定した。

3 系統（6年生 総合的な学習の時間 年間指導計画から）

いろいろな人のことを知ろう

史跡をめぐる藪塚の昔のことを知ろう

世界に広げよう 僕らの目

4 児童の実態

< 関心・意欲・態度の面から >

子どもたちは、本単元の初めに半田藪塚本町教育長から「藪塚本町の史跡と文化財」という題の話聞いた。その感想から、以下のようなことが見られた。

藪塚本町という町の名前がどのようについたかということについて非常に多くの子どもたちが興味をもった。また、まだ発掘されていない古墳が藪塚本町にはあるということなどを聞いて、自分も古墳を調べたり、土器を探してみたいといった興味を持つ子どもも多かった。

また、普段通学途中などに、何気なく見ているものが、実は重要な史跡だったことに驚いた子どもも多かった。

< 思考・判断 >

見てくる史跡が町全体の中でどのような場所に分布しているのかを示した地図を見て子どもたちが書いたワークシートから以下のようなことが見られた。

史跡の分布の特徴について、何も書けなかった子どもは6名だった。

「町の東の方にある。」「西の方にはない」といったことに一つ気づいた子が21名。一つ以上気づいた子が6名だった。

ほとんどの子が、地図を見てその場所の特徴を見つけることができていた。

< 技能・表現 >

グループごとの史跡のまわりでは、次のようなグループに分かれて行われた。

Aコース（2グループ9人）

馬頭観音、新井家五輪塔、胎養寺、牛之塔、生品神社敷石住居跡、長円寺、西山古墳

Bグループ（3グループ14人）

生品神社敷石住居跡、北山古墳、十一面観音、阿弥陀如来像

Cグループ（2グループ9人。ただし一人欠席）

長円寺、西山古墳、阿弥陀如来像、北山古墳

史跡のまわりの様子の特徴を記録した記録用紙から以下のようなことが見られた。

3つ以上の場所で、そのまわりの様子の特徴を記録できた子は、15人。1・2つ見つけれられた子は、15人。記録してきたのだが、まわりの様子ではなく、そのものの様子を記録してきてしまった子は2人だった。当日欠席が1名だった。

記録してきた中で1つでも、当時の人々が住んでいた場所の特徴にふれていると思われることを記述してあった子は、23人であった。

< 知識・理解 >

関心・意欲・態度の所で見られたことだが、ほとんどの子どもたちは、普段目にしているものでも、それがどんな意味のある史跡なのかまでは知らないようである。

子どもたちは、4年生の時に社会科で町の歴史については一度学習してある。しかし、江戸時代の岡登用水ができた頃から現在までの学習である。それ以前の町の歴史については、知らない子どもが多い。

5 指導上の留意点

史跡めぐりのグループ分けでは、子どもたち一人一人が調べたい史跡の場所が入っているコースを選択できるようにする。

子どもたちが調べてきた史跡の写真と記録してきたものは、事前にweb化しておき、子どもたちが自由に見ることができるようにしておく。

史跡めぐりの記録の共有化を図るために、授業の前半部分では、記録してきたことを発表させるようにする。その上で、多くの史跡に共通するまわりの様子の特徴について考えさせる。

自分の考えがもてなかったり、考えたことをなかなか文として書けなかったりする子は、黒板に書かれた友達の考えを参考にしたり、同じグループの友達の考えを参考に書いてもいいように話す。

藪塚本町全体の史跡がどこに位置するのかわかませるために子どもたちが史跡めぐりで実際に見なかったその他の史跡も、年代ごとに地図上に表したものを見せることで、その場所が町のどのへんに分布してきたかをつかめるようにさせる。

史跡めぐり後の学習では、子どもたちが調べてきたことを示したり、年代別に史跡を表したり、土地利用図と史跡の分布の様子を重ねたりして、昔の人々が住んでいた場所の特徴を見つけやすいようにする

年代ごとに人口がどのように分布していったかや用水路・鉄道などを描くことによって年の町の発展の様子をつかみやすいようにする。

授業にあたっては、埼玉大学教育学部の谷謙二氏作成の地理情報分析支援システムソフト「MANDARA」を使用する。子どもたちが学習用に使うものは、それを見やすくするためにweb化した。

単元の目標

藪塚本町の史跡・歴史について聞いた話や史跡めぐりでの調査活動やそのまとめ、年代ごとの史跡分布図や現代の土地利用分類図などの主題図を基に、史跡分布の特徴や人々がどんな所に住んできたかをとらえ、町の発展の様子を知り、これからの町について自分なりの考えをもつことができる。

評価規準

| 評価の観点 | 評価規準 |
|----------|--|
| 関心・意欲・態度 | グループで協力しながら史跡めぐりをしている。 |
| 思考・判断 | 土地利用図と史跡分布図を重ね合わせた地図を使って、人々が住んでいた場所の特徴を考えている。これからの藪塚本町について自分の考えをもっている。 |
| 技能・表現 | 史跡めぐりで見てきた史跡のまわりの様子を記録することができる。自分の |

| | |
|-------|---|
| | 記録や友達の記録を見たり、聞いたりして、分かったこと、気がついたこと、思ったことを書いたり、発表している。 |
| 知識・理解 | 旧石器時代から現代までの藪塚本町がどのように発展してきたか理解している。 |

指導計画 全11時間（本時は10/11）

| | ねらい | 時間 | 学 習 活 動 | 評価の観点 |
|---------------------------|--|---------|--|---|
| 藪塚本町の歴史 についての話 | 半田教育長の話聞きながら、藪塚本町の史跡・文化財について興味をもつことができる。 | 1、 2 | 藪塚本町の史跡・文化財についての話を聞く。 | 分かったこと、気がついたこと、思ったことを書いている。 |
| 史跡めぐりの事 前指導 | 学習用市町村別地図への書き込み作業を通して、史跡のある場所の特徴を見つけ、史跡めぐりの課題をつかむことができる。 | 3 | 史跡めぐりで行く場所、コースを確認する。史跡が町のどんな所にあるか考える。調べてくる観点について知る。 | 史跡めぐりの課題をつかんでいる。 |
| 史跡めぐり | グループごとに史跡めぐりをしながら、史跡のある場所の写真を撮ったり、周りの様子を見て、記録することができる。 | 4～ 9 | 史跡で写真を撮り、記録してくる。 | 予定した史跡を回って、記録している。 |
| 藪塚の歴史を考 える | 旧石器時代から室町時代までの人々が住んでいた場所の特徴を見つけることができる。 | 10 | 室町時代までの史跡が町のどんな所にあるか考える。人々が住んでいた場所の特徴を考える。 | 地図と史跡めぐりのまとめをもとにして、人々が住んでいた場所について考えている。 |
| 藪塚の歴史とこ れからについて 考える | 江戸時代以降現在までの町の発展について知り、これからの町のあり方について自分なりの考えをもつことができる。 | 11 | 笠懸野新田計画、岡登用水再興、東武鉄道敷設、戦後の農地改革によって町がどのように発展してきたか。これからの町がどのようなになっていったらよいと思うか考える。 | これからの町について、自分の意見を持っている。 |

本時の学習

< 10時間目：室町時代までの藪塚本町 >

1 ねらい

旧石器時代から室町時代までの人々が住んでいた場所の特徴を見つけ、その理由を考えることができる。

史跡分布の様子と現代の土地利用の様子を関連づけて考えることができる。

2 準備

(教師)

室町時代までの史跡分布図と現代の町の土地利用図、これらの主題図を重ね合わせた資料
史跡のある場所について子どもたちが書いたことをまとめたプリント・デジタル資料

(子どもたち)

子どもたち一人一人が史跡めぐりで書き込みをしたプリント

3 授業の視点

史跡めぐりで見てきた史跡のまわりの様子について考えさせたり、デジタル化した学習用市町村別地図を使って、史跡の分布と現在の土地利用図を重ね合わせたりしたことは、旧石器時代から室町時代までの人々が住んでいた場所の特徴を見つけることに有効だったか。

4 展開

| 学習活動(児童の反応) | 時間 | 学習への支援 | 評価の観点 |
|--|-----|--|---|
| <p>1 史跡めぐりを振り返り、史跡ごとのまわりの様子について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題1：史跡のまわりの様子をまとめよう。</p> </div> <p>(西山古墳のまわりは山だ。) (北山古墳のまわりは、木がたくさん生えていた。) (生品神社敷石住居跡のまわりは、畑があった。) (牛之塔の近くには、家がたくさんあった。)</p> | 20分 | <p>児童が調べてきた史跡の写真と記録してきたものは、事前にWebページとして、本時の前に自由に見ることができるようにしておく。</p> <p>児童一人一人の記録を史跡ごとに見られるようにWebページを作っておき友達の記録も参考にして、史跡のまわりの様子を考え、ワークシートに記録させるようにする。</p> <p>児童に記録したものを発表させながら板書し、情報交換をさせ、複数の史跡に共通するまわりの様子にも着目させるようにする。このことが、室町時代までの他の史跡にもあてはまるか考えてみることを促し、課題2へとつなげていくようにする。</p> | |
| <p>2 旧石器時代から室町時代までの史跡分布図と現在の土地利用分類図を重ねた主題図から、史跡があった場所の特徴について考える。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>課題2：史跡があった場所の共通の特徴を考えよう。 (本時のねらい)</p> </div> <p>(史跡は水田のまわりに多い。) (史跡は山の方に多い。) (旧石器時代の史跡は山の中にある。)</p> | 15分 | <p>町全体の史跡分布の様子から史跡があった場所の特徴に気付くことができるように、MANDARAで作成した主題図・資料を集め、Web形式の教材にして、それぞれのコンピュータで使えるようにしておく。</p> <p>プロジェクタとスクリーンを使って、史跡分布図や現代の土地利用分類図などの主題図を示し、課題2に取り組ませる。</p> <p>意見を板書させ、情報交換を行い、史跡の分布と土地利用の関連性に気付けるように支援する。</p> | <p>*ワークシート</p> <p>室町時代までの史跡分布と現在の土地利用の様子を関連づけて考えている。(思考・判断)</p> |

| | | | |
|--|------------|---|---|
| <p>(森林になっているところにたくさん史跡がある。)</p> <p>(町の西の方には史跡が全然ない。)</p> <p>(史跡は、高い場所にもある。)</p> <p>(今、岡登用水がある近くにもたくさん史跡がある。)</p> | | <p>なかなか特徴に気付くことができない児童には、一つの史跡を指定して、そこがどんな土地利用になっているのかを考えさせるように促す。</p> <p>児童が考えた史跡があった場所の共通の特徴から、「なぜ史跡は、山の方に多いのか。」という疑問を投げかけ、課題3へと発展させるようにする。</p> | |
| <p>3 発展的な課題について考える。</p> <p>課題3：なぜ史跡があった場所に人々は住んでいたのか。</p> <p>(水田があって、お米が取れたから人々は住んでいたんだろう。)</p> <p>(山の中に、獲物がいたので人々は住んでいたんだろう。)</p> | <p>10分</p> | <p>史跡めぐりをしてきたグループごとに集まって、課題を解決するために話し合うような場と時間を確保する。グループでの話し合いの結果を発表させ、意見を共有する場を持つ。</p> | <p>* 発言</p> <p>史跡分布図と現代の土地利用分類図を重ね合わせた主題図を見て考えたことを元にして、人人が住んでいた理由を考えている。(思考・判断)</p> |

5 評価の観点

旧石器時代から室町時代までの藪塚本町の人々が住んでいた場所の特徴を史跡分布図や土地利用図、それらを重ね合わせた資料を使って見つけている。